



平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年7月27日

上場会社名 株式会社 木曽路

上場取引所 東名

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 戸谷 明宏

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	9,976	0.6	62		108		104	
30年3月期第1四半期	9,920	1.0	107		83		88	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	4.08	
30年3月期第1四半期	3.41	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	37,306		28,409			76.2
30年3月期	38,442		28,925			75.2

(参考)自己資本 31年3月期第1四半期 28,409百万円 30年3月期 28,925百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		9.00		12.00	21.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		11.00		12.00	23.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年 3月期の業績予想(平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,000	1.2	200		170		240		
通期	45,500	2.4	2,460	10.4	2,520	10.6	1,420	6.7	54.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	25,913,889 株	30年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	379,503 株	30年3月期	379,434 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	25,534,427 株	30年3月期1Q	25,835,133 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第1四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成31年3月期	9,976	△62	△108	△104	△4.08
平成30年3月期	9,920	△107	△83	△88	△3.41
増減率(%)	0.6	-	-	-	-

当第1四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)におけるわが国経済は世界経済の好調から企業収益が伸び、緩やかな景気回復基調となりました。その一方で可処分所得の伸び悩みや、原油価格の高騰による物価上昇も懸念され、個人消費は本格的な改善には至っておりません。

国外では米国と北朝鮮の関係が緊張から融和ムードへ歴史的転換を遂げたものの、米国の保護主義的な政策に伴う外需の下振れリスクにより、国内産業は先行き不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、労働力不足による人件費の増加や東京オリンピック開催準備に伴う建設費の高騰、天候不順や大雨などによる農作物への悪影響など、厳しい状況が続いております。

このような経営環境の中で当社は、収益面において店内教育システムの見直しなどにより継続的に既存店の営業力を強化してまいりました。更に市場調査による顧客ニーズの分析とコア商品の品質向上による営業基盤の改革、顧客の創造にも取り組んでまいりました。費用面においてはワークスケジュール、経費管理や機械化と情報システムの活用により更なる生産性の向上に努め、販管費率が低下しました。また、働き方改革の推進により労働環境の改善を行いました。

店舗展開、改築・改装につきましては、1店舗の新規出店、1店舗の退店を実施し、その結果、当第1四半期会計期間末の店舗数は162店舗(前年同期比1店舗減少)となりました。

また、当事業年度は積極的な新規出店、新業態の開発及びFC展開等の準備を行い、収益拡大を図ってまいります。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は99億76百万円(前年同期比0.6%増加)、営業損益は62百万円の損失(前年同期実績1億7百万円の損失)、経常損益は1億8百万円の損失(同83百万円の損失)、四半期純損益は1億4百万円の損失(同88百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曾路	8,215	8,319	1.3
素材屋	564	562	△0.2
じゃんじゃん亭	579	541	△6.6
とりかく	263	269	2.3
鈴のれん	214	195	△9.1
その他	82	88	6.9
計	9,920	9,976	0.6

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、店舗の異動はなく、当第1四半期会計期間末店舗数は117店舗（前年同期末比1店舗減少）であります。営業面では好評を得ているイベント「北の幸まつり」やTVCMを引き続き実施しました。更に木曽路の新定番「鰻ひつまぶし」や「和牛ひつまぶし」を販売し、お客様の満足度と客数増に努めました。また、お誕生日やお食い初めなどのお子様のお祝い、新入学・就職、結婚や長寿といった慶事・祝事へのアプローチとともに最適のおもてなしを提供してまいりました。その結果、売上高は83億19百万円（前年同期比1.3%増加）となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第1四半期会計期間末店舗数は14店舗であります。営業面では、味噌串かつ・手羽先のから揚げなどの名古屋めしやこだわりの串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、焼酎一升瓶のお値打ち販売を実施するとともに、少人数から大人数の様々な宴会利用できる店舗として営業活動を行いました。しかしながら、売上高は5億62百万円（同0.2%減少）となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の退店により、当第1四半期会計期間末店舗数は13店舗（前年同期末比1店舗減少）であります。営業面では、「手切り、熟成肉、黒毛和牛」にこだわり、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、引き続き法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生限定企画など予約獲得活動に努めましたが、売上高は5億41百万円（同6.6%減少）となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第1四半期会計期間末店舗数は9店舗であります。営業面では、「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会コース、お客様ニーズの高い飲み放題プランを複数用意し来店客数の増加に努めました。その結果、売上高は2億69百万円（同2.3%増加）となりました。

鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当第1四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。営業面では、御膳や季節毎のメニューを刷新し、各種宴会コースやしゃぶしゃぶまたはすきやきの食べ放題メニューに「お肉を選べるコース」をご用意しました。また、慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し、来店客数の増加に努めましたが、売上高は1億95百万円（同9.1%減少）となりました。

その他部門

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「ここの」、外販（しぐれ煮、胡麻だれ類）、不動産賃貸等であります。「ここの」が1店舗の新規出店をしたこともあり、その売上高は88百万円（同6.9%増加）であります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成30年3月31日現在)	当第1四半期 (平成30年6月30日現在)	増 減
総資産(百万円)	38,442	37,306	△1,136
純資産(百万円)	28,925	28,409	△516
自己資本比率(%)	75.2	76.2	-
1株当たり純資産(円)	1,132.80	1,112.59	△20.21

当第1四半期会計期間末の総資産は373億6百万円で前事業年度末比11億36百万円の減少となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払による預金の取り崩し、季節的要因による売掛金の減少によるものであります。一方、負債は、88億97百万円で前事業年度末比6億19百万円の減少となりました。これは主に季節的要因により買掛金が減少するとともに、未払法人税等及び賞与引当金が減少したことによるものであります。また、当第1四半期会計期間末の純資産は284億9百万円で前事業年度末比5億16百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失1億4百万円、剰余金の配当3億6百万円であります。

以上の結果、当第1四半期会計期間末の自己資本比率は76.2%(前事業年度末は75.2%)、1株当たり純資産は1,112.59円(同1,132.80円)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月8日に公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,424	13,810
売掛金	1,180	926
商品及び製品	46	43
原材料及び貯蔵品	502	768
その他	463	534
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	17,616	16,083
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	5,336	5,295
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,288	1,732
有形固定資産合計	12,348	12,751
無形固定資産	199	222
投資その他の資産		
差入保証金	4,429	4,451
その他	3,878	3,827
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	8,278	8,249
固定資産合計	20,826	21,223
資産合計	38,442	37,306
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,316	1,199
短期借入金	920	920
未払法人税等	793	106
賞与引当金	534	264
その他の引当金	339	345
その他	2,713	2,928
流動負債合計	6,617	5,764
固定負債		
退職給付引当金	974	984
資産除去債務	1,312	1,321
その他	612	828
固定負債合計	2,899	3,133
負債合計	9,517	8,897
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,642	9,231
自己株式	△925	△925
株主資本合計	28,648	28,238
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	276	171
評価・換算差額等合計	276	171
純資産合計	28,925	28,409
負債純資産合計	38,442	37,306

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	9,920	9,976
売上原価	3,163	3,156
売上総利益	6,757	6,819
販売費及び一般管理費	6,864	6,882
営業損失(△)	△107	△62
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	10	10
固定資産受贈益	12	—
その他	3	3
営業外収益合計	31	18
営業外費用		
支払利息	1	1
賃貸借契約解約損	3	61
その他	1	1
営業外費用合計	7	64
経常損失(△)	△83	△108
特別利益		
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	—	2
特別損失		
固定資産除却損	2	0
減損損失	5	30
特別損失合計	8	30
税引前四半期純損失(△)	△91	△137
法人税、住民税及び事業税	30	25
法人税等調整額	△33	△58
法人税等合計	△3	△32
四半期純損失(△)	△88	△104

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。